



第4回理事会（10月23日）

清森福岡市水道事業管理者から全国会議開催地代表挨拶の後、中嶋東京都公営企業管理者・水道局長が議長となり、議案の審議に入った。

はじめに、報告事項として「公益社団法人日本水道協会の会務について」事務局より報告した。

続いて、第1号議案「公益社団法人日本水道協会第93回総会の運営について」、第2号議案「会員の入会について」それぞれ事務局より配布資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり決定した。



平成30年度全国会議〔第93回総会・水道研究発表会〕

（10月24日～26日 於：福岡サンパレスホテル&ホール・福岡国際会議場）

～1日目（10月24日）～

開会式において、開催地代表として高島福岡市長より、日本水道協会を代表して大森副会長（岡山市長）から挨拶があった。

次に、厚生労働大臣（是澤厚生労働省医薬・生活衛生局水道課長代読）、総務大臣（本島総務省自治財政局公営企業経営室長代読）、国土交通大臣（溝口国土交通省水管理・国土保全局水資源部水資源計画課長代読）、福岡県知事（見坂福岡県県土整備部長代読）、川上福岡市議会議長、木股日本水道工業団体連合会会長から来賓祝辞があった。



総会・シンポジウム会場：福岡サンパレスホテル&ホール



研究発表会会場：福岡国際会議場



開会式



福岡水道展

(左から木股日本水道工業団体連合会会長、是澤厚生労働省医薬・生活衛生局水道課長、大森日本水道協会副会長(岡山市長)、清森福岡市水道事業管理者)



開催地代表挨拶：
高島福岡市長



本協会代表挨拶：
大森副会長(岡山市長)



厚生労働大臣祝辞：
是澤厚生労働省医薬・生活衛生局
水道課長



総務大臣祝辞：
本島総務省自治財政局
公営企業経営室長



国土交通大臣祝辞：
溝口国土交通省水管理・国土保
全局水資源部水資源計画課長



福岡県知事祝辞：
見坂福岡県県土整備部長



祝辞：
川上福岡市議会議長



祝辞：木股日本水道
工業団体連合会会長



議長：清森福岡市
水道事業管理者



次年度全国会議開催地挨拶：
川越函館市公営企業管理者



厚生労働大臣表彰



日本水道協会感謝状贈呈



日本水道協会会長表彰（功労賞）



日本水道協会会長表彰（特別賞）



日本水道協会会長表彰（有効賞）



日本水道協会会長表彰（勤続賞）



日本水道協会会長表彰（水道イノベーション賞）

続いて、表彰式が行われ、はじめに厚生労働大臣表彰として是澤厚生労働省医薬・生活衛生局水道課長より藤原敏司氏他56名の受賞者に対し表彰状が贈られた。これに対して受賞者を代表して、佐渡明氏より謝辞が述べられた。

続いて、日本水道協会感謝状が、大森副会長（岡山市長）より、浅利敬一郎前豊中市長に贈呈された。

続いて、日本水道協会会長表彰が行われ、大森副会長（岡山市長）より、功労賞として牧田嘉人氏他2名、特別賞として鎗水徹氏他58名、有効賞として鶴田朋子氏他3名、勤続賞として佐久間秀幸氏他518名、水道イノベーション賞として香川県広域水道企業団他3団体に対して表彰状が贈られた。これに対して会長表彰全受賞者を代表し、牧田嘉人氏から謝辞が述べられた。

表彰式終了後、定款の定めにより開催地の清森福岡市水道事業管理者が議長となり、会員提出問題の討議に入った。

はじめに、平成30年自然災害関係として、問題1「平成30年7月豪雨災害に関する上水道施設災害復旧費補助金の拡充について」が上程されたが、提案都市より、本要望事項については要望に沿った財政支援措置が決定された旨の説明があり、討議の結果、議了となった。次に、問題2「平成30年北海道胆振東部地震に関する上水道施設災害復旧費補助金の拡充について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、東日本大震災関係として、問題3「東日本大震災に係る水道施設の災害復旧事業等における人的支援の強化及び継続について」、問題4「放射性物質に係る対応の推進及び東京電力福島第一原子力発電所の事故を原因とする損害賠償について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、補助関係として、問題5「水道事業に対する財政支援の拡充及び要件の緩和等について」、問題6「水道施設の更新・再構築事業に対する新たな財政支援体制等の確立について」、問題7「簡易水道事業統合等に対する財政支援について」、問題8「二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（上水道システムにおける省CO2促進モデル事業）の採択条件の明確化等について」、問題9「交付金の一部事務組合への直接交付について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、起債・繰出関係として、問題10「起債融資条件の改善及び地方公営企業繰出制度の拡充等について」、問題11「公的資金補償金免除繰上償還制度及び公営企業借換債制度の復活等について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、災害対策関係として、問題12「水道施設の災害対策に対する行財政支援等について」、問題13「水道事業における電力確保対策等について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、水源関係として、問題14「水源施設の開発促進等について」、問題15「水利権制度の柔軟な運用について」、問題16「特定多目的ダム供用開始後に要する利水者負担額の軽減

について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、水質関係として、問題17「水道水源における水質保全対策及び水質事故の発生防止の強化等について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

最後に、その他として、問題18「公民連携支援体制等の検討について」、問題19「地下水利用等による専用水道に係る法整備及び対応について」、問題20「地下水の取水地点変更に係る認可変更手続きの見直しについて」、問題21「指定給水装置工事事業者の更新制度創設に伴う支援体制等の確立について」、問題22「配水管等の耐用年数の見直しについて」、問題23「電磁式を含む水道メーターの検定有効期間の延長について」、問題24「水道料金に対する軽減税率の適用について」、問題25「水道法改正に伴う新たな給水手法の検討について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

続いて、是澤厚生労働省医薬・生活衛生局水道課長から、「水道事業の基盤強化に向けて～冬山への挑戦～」について、本島総務省自治財政局公営企業経営室長から、「水道事業経営の現状と課題」についてそれぞれ説明があった。

続いて、次年度全国会議開催地について、全国会議の開催地は、北海道地方支部から九州地方支部までの持ち回りとなっており、次年度開催地について、北海道地方支部から函館市を推薦いただいていること等を事務局から報告し、報告のとおり満場一致で函館市に決定した。

続いて、次年度全国会議開催地を代表して川越函館市公営企業管理者より挨拶があった。

なお、同日午後から水道研究発表会が10部門に分かれて開催され、発表数は事務49、計画39、水源・取水22、浄水87、導・送・配水108、給水装置25、機械・電気・計装21、水質56、リスク管理・災害対策50、英語8、計465編の発表が行われた。



研究発表会の様子

～2日目(10月25日)～

シンポジウムとして、「水道事業の「持続」に向けた戦略的経営－経営計画に基づく事業基盤強化－」をテーマに、石井東洋大学経営学部経営学科教授の座長のもと、古川八戸圏域水道企業団副企業長、清森福岡市水道事業管理者、福原全国上下水道コンサルタント協会上水道委員会上水道小委員会委員が講師を務め、開催された。

(速記録は本誌2月号に掲載予定)

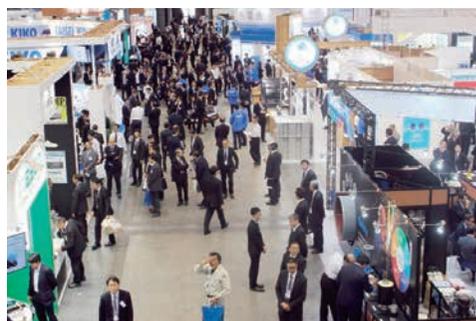


水道研究発表会と並行し、25日から26日にかけて事務局設定4コースに分かれ、福岡市の水道施設等を視察した。

また、会期中、本協会のPRコーナー、日本水道工業団体連合会による水道展等が開催され、多数の見学者で賑わった。



本協会 PR コーナー



水道展

水道技術管理者資格取得講習会 (東京会場第1回：9月26日～10月17日、
東京会場第2回：9月27日～10月18日、
大阪会場：10月10日～10月30日)

水道法施行規則第14条第3号による登録機関として、東京会場第1回：80名、東京会場第2回：78名、大阪会場：78名の参加を得て、「水道行政・水道経営」「水質管理・公衆衛生・衛生管理」「水道基礎工学概論」「水道施設管理」について15日間の学科講習を実施した。

なお、学科講習修了者は、この後に「水道施設の技術的基準を定める省令第5条」に適合する汙過設備を有する水道施設において、15日間の実務講習を行う。

浄水場等設備技術実務研修会（東京会場第6回：10月16日～19日）

浄水場・給水所等の運転管理に携わる技術系職員の方々16名の参加を得て、東京都水道局研修・開発センターの訓練用設備を利用して、実際にポンプの分解組立等、機器類の運転・操作及び浄水処理について実習するとともに、設備機器の保守・管理の実務について研修を実施した。

第136回水道 GLP 認定委員会（10月30日）

水道 GLP 認定について、宇都宮市上下水道局（JWWA-GLP041）、香川県広域水道企業団（JWWA-GLP044）、一般社団法人岩手県薬剤師会（JWWA-GLP089）、坂戸、鶴ヶ島水道企業団（JWWA-GLP090）、環境保全株式会社（JWWA-GLP091）と公益財団法人山口県予防保健協会（JWWA-GLP128）が認定維持検査機関として、それぞれ審議され決定された。

水道技術管理者研修会（10月30日～31日）

水道技術管理者または管理者を補佐する方々148名の参加を得て、「水道事業を取り巻く環境の変化」、「水道水質管理に関する最近の動向」、「浄水場におけるリスクアセスメントの手引きについて」について研修を実施した。

なお、本研修会では毎年特別講師として各界の著名な方に講演を依頼しており、本年度は神戸学院大学現代社会学部教授の中田敬司氏が「組織における災害危機管理」と題して講演を行った。

また、事例研究として、松江市上下水道局建設課長の中倉隆氏に「IoT を活用したオープン型遠隔監視システム構築による広域的水道施設の運転維持管理」と題して、オープン型遠隔監視システム『縁（えにし）』を構築した取組について講義いただいた。

配管設計講習会（九州会場第1回：10月31日～11月2日）

水道事業者及び設計業者等の経験が少ない水道技術者の方々50名の参加を得て、「水道の課題と設計業務」、「配管設計・積算の基礎知識」、「製図の基本」、「管路（GX形）の製図演習」、「積算の基本」、「管路（GX形）の積算演習」について研修を実施した。